

生誕250年 神様になった伊良湖の歌人

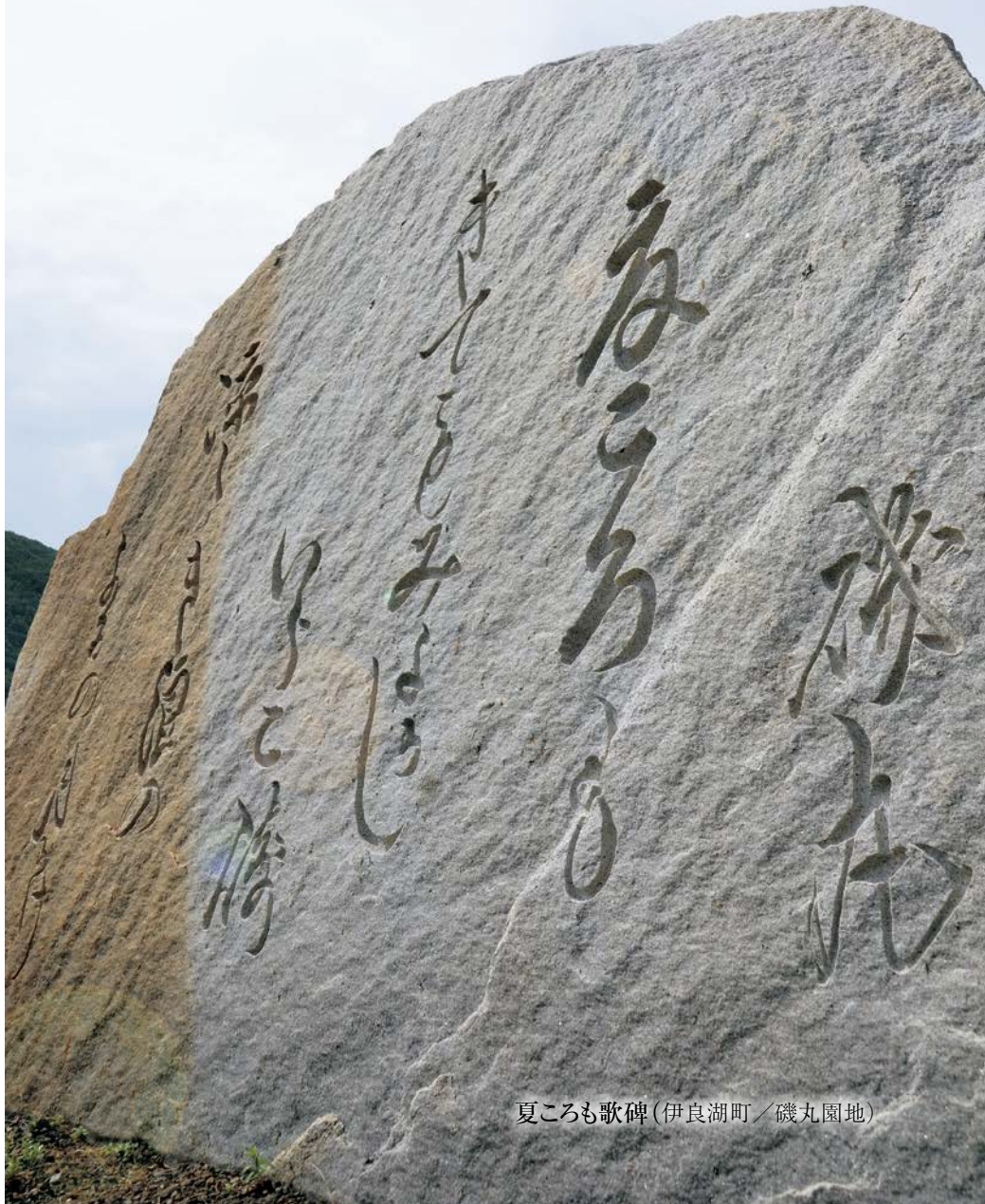
糟谷磯丸

磯丸が詠んだ歌。その背景にある民衆の思い。

幕末という動乱の時代を駆け抜けた彼らが何を願い、喜び、悩み苦しんだのか。

そういつた思いを一身に引き受け、ひたすら歌を詠み続けた伊良湖の歌人。

人々にあがめられ、ついには神様になった糟谷磯丸の足跡をたどります。



夏ころも歌碑 (伊良湖町 / 磯丸園地)

▼田原市博物館 ☎22局1720

伊良湖を詠んだ歌 (歌碑原本)

夏ころも きてもみよかし いらご崎 涼しき浪の よるの月かけ

糟谷磯丸筆。歌を詠み始めたころの初期作。林織江の「伊良古之記」にも同義の歌の掲載がある。「夏がきて、涼しい着物に着替える季節になりました。そんな着物を着て、ふらりと夏の伊良湖崎に来てください。月夜の砂浜に聞こえる波の音が涼しくて、何ともいえない気分になりますよ」(渥美郷土資料館蔵)

